

2026年 藤田記念博物館企画展

大正期の

フランス

スイス

ベルギー

仏蘭西・瑞西・白耳義風景

— 日本画家 結城素明が描いた油彩画 —



ジュネーブ湖畔(大正13年・1924)



エリシーの寺院(教会)(大正13年・1924)



ブラッセルのムール貝売り(大正13年・1924)



マーケット(大正13年・1924)

2026 10月2日(金)～11月3日(火・祝)

開館時間 10時～16時

休館日

毎週月曜日(祝日の場合はその翌日) 11月2日(月)は開館

入館料

一般 500 円、大学・高校生 300 円、中学生以下は無料



大正期の 仏蘭西・瑞西・白耳義風景

フランス

スイス

ベルギー

白河の藤田家との交友で知られる日本画家結城素明は、大正12年(1923)から2年間文部省在外研究員としてフランスをはじめドイツ・イギリスの博物館が所蔵する中国仏教遺跡壁画の研究を目的に留学しています。この滞欧時に素明はフランスはもとよりベルギー・スイスの油彩画風景作品を130余点描いています。

今回の企画展では、2023年度開催のパリ風景油彩画展の第2弾としてスイス・ベルギーの風景作品も加えて展示紹介するものです。スイス風景ではジュネーブのレマン湖畔や遠くに霞むモンブランを描いた作品、ベルギー風景ではブリュッセル市街地や市場で賑わう風景などを描いています。また、セーヌ川に架かる橋やエッフェル塔、凱旋門、ノートルダム大聖堂などのパリ風景を描いた作品も展示いたします。

日本画家が油絵の技法で描いた大正期の欧州風景作品をぜひご鑑賞下さい。

1 ジュネーブ ルウソウ崎(大正13年・1924)

2 ジュネーブ 乗合馬車(大正13年・1924)

3 ブラッセル市街(大正13年・1924)

4 ブラッセル公園 白耳義(大正13年・1924)

5 ノートルダム大聖堂(大正13年・1924)

6 凱旋門(大正13年・1924)

結城素明 (1875~1957)

結城素明は、明治8年(1875)に東京本所の酒商池田屋を営む森田家の次男として生まれる。本名の貞松や素明のネーミングは勝海舟によるものといわれている。明治24年(1891)に岡倉天心の紹介で日本画家川端玉章に入門し、翌年東京美術学校(現東京芸大)日本画科に入学し、明治30年(1897)に卒業するも同校西洋画科に再入学(中退)。

明治33年(1900)には平福百穂などと絵画団体「无声会」を結成し、同37年には東京美術学校助教授(大正2年に教授)となる。この頃、素明と白河・藤田家との交友が始まる。

明治40年(1907)には第1回文展に「無花果」(いちじく)が入選、同44年には「囀」(さえずり)が第5回文展に入選、翌45年の二科展に「甲たる馬」が入選するなど活躍、大正5年(1917)には吉川麗華、鍋木清方、松岡映丘、平福百穂と「金鈴社」を結成し、同11年まで活動、翌12年には文部省在外研究員としてフランスに2年間留学。帰国後は、帝展を中心に活躍し、終戦後は食糧事情の悪化等により昭和21年(1946年)から翌年にかけて藤田家に疎開、戦後も日展などに出品を続けたが、昭和32年に東京文京区の自宅において81歳で没。

